

楽しく美しい まちづくり通信...⑦⑩

感じとくちから、ゆるやかなの響き

「ほごず」に託した友情

「かわいいい赤ちゃんだこと」
が適當かな？」と声が出る。

平成五年から始まった「ほごずの会（柏田一士代表）」の「にのへ里ことば」編集作業もいよいよ終業の時をむかえた。

「めぐいアガゴッコだごど」
この地方の耳なれた、しかし、
すぐには理解に困る方言が部屋
中に響きわたる。
元校長先生たちが悩んでいる。

「ほごず」とは、この地方の
方言で「何にも役に立たない腐
った木」という意味。ただ、こ
の世の中に役に立たぬものはな
いわけで、「ほごず」も新芽の
糧になるように、その姿に自分

課題は、「本家が分家に出向
き、生まれたばかりの孫子ほ
め」。これを当地方の方言で演
じ、高い評価を得たのが会発足
のきっかけでした。

その後、気仙語の研究者であ
る医師の山浦玄嗣さんとの出会
いとおして、二戸地方の方言
をまとめることに精力を注ぎ、
その後、元校長先生二名も加わ
り、六名で活動を続けてきまし
た。

たちを比喻する心
意気に人生の余裕
が感じられる。
「ほごずの会」
が発足したのはい

まから七年前、平
成四年に岩手県で
開催された「第八
回プレ国民文化祭
岩手大会」の時で
した。

当時、大船渡市
では「お国ことば
交流大会」が行わ
れ、そこに県北代
表として参加した
のが「ほごずの会」
のメンバー四人。

「ほごずの会」のメンバー

メンバーの皆さんは口をそろ
えていいます。「二戸地方の方
言は泥臭さの中に温かみがある。
乱暴なようだが直感性があるか
ら意思の疎通には最適」、「いま
の若い人にどれだけ理解しても
らえるか分からないが、地方文
化の『宝』と思い、大事にして
ほしい」
そしてその成果が五月二十九
日に開催された「にのへ里こと
ば」出版記念祝賀会へとつなが
りました。



「にのへ里ことば」

会場に集まった約百人の前で
の方言によるあいさつは圧巻で
あり、感動的でした。また、
A四版百二十八ページに収録
された方言は約二千三百語で、
「カタカナでの表記」、「ローマ
字での発音」、「意味説明」、そ
して、一番苦労したという「活
用例」から構成され、六人の七
年間にわたる成果が凝縮されて
います。

各自がお金を出し合っただけ
の費用で、この「これでは
らぐは焼酎しか飲めねえなあ
い」という顔には、何かを成し
遂げたという満足感が伺えまし
た。

こよみ



6月11日～7月10日

★6月★

- 11日(金) 入梅
- 12日(土)
- 13日(日)
- 14日(月)
- 15日(火) 4か月健康診査(市保健センター)
- 16日(水)
- 17日(木) 2歳歯科健康診査(市保健センター)
- 18日(金) 海外移住の日
- 19日(土)
- 20日(日) 父の日
- 21日(月)
- 22日(火) 1歳6か月健康診査(市保健センター)、夏至(二四節気)
- 23日(水) 法律相談(市役所相談室)、沖縄慰霊の日、オリピックデー
- 24日(木) 税務巡回相談(市役所相談室)
- 25日(金)
- 26日(土)
- 27日(日)
- 28日(月) 貿易記念日

29日(火) 10か月健康診査(市保健センター)